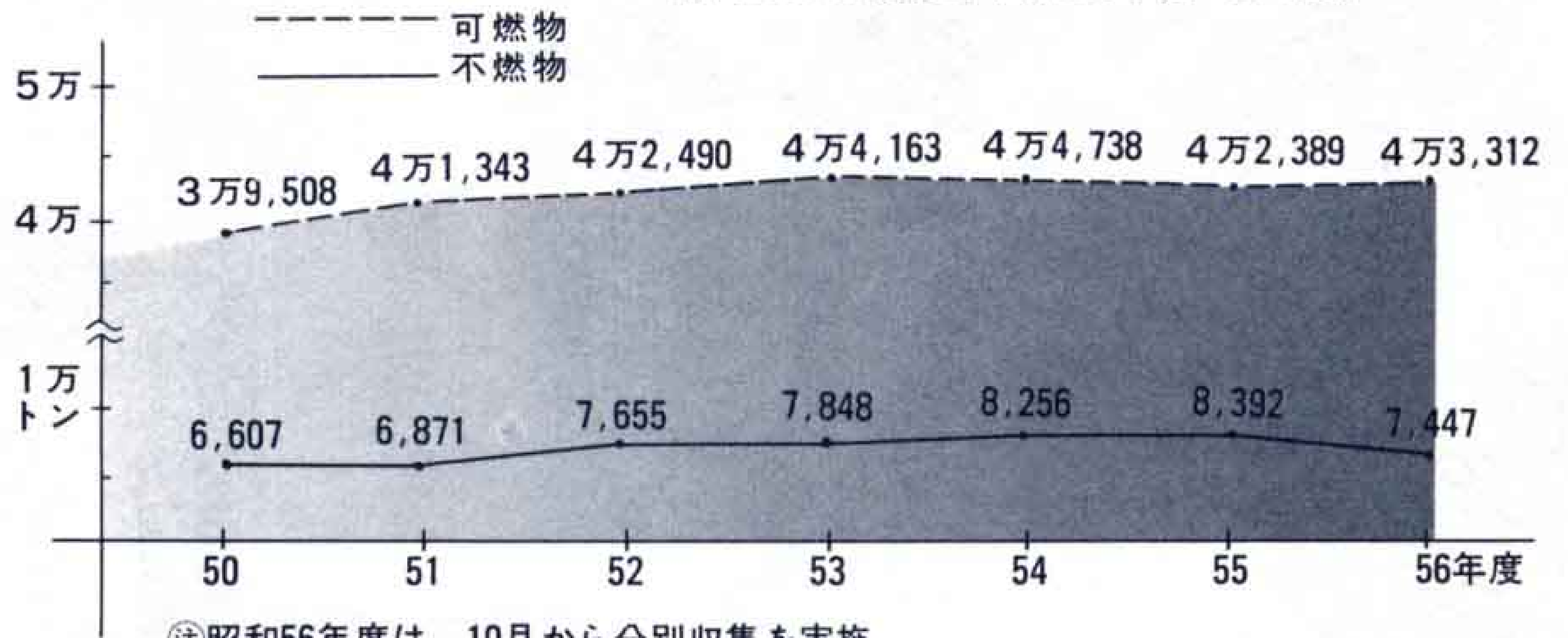


レポーター



主婦 竹内幸子さん (42歳)
厚原中

市内のごみ収集量 (昭和50年度～56年度)



市民のみなさんの協力により、昨年10月から市内いっせいに実施したごみの分別収集結果が、このほどまとまりました。この結果、分別収集は資源の再利用、埋立ごみの減量に、予想以上の成果をあげています。

今回は、この分別収集結果について、厚原中に住む主婦、竹内幸子さんにレポートしていただきました。

ごみの分別収集結果

予想以上の成果あがる

65セパも減った埋立ごみ

売却金は約1,800万円

「ヤレヤレ面倒なことになるナー」昨年、資源ごみの分別収集の協力呼びかけ案内を見た途端、小さな溜息がでたのは私ばかりではなかったと思います。一年を経過しましたが現在はどうでしょうか。その成果を担当課の環境衛生課で聞いてみました。一年間の売却金は、約1,800万円にもなり、これを市民1人あたりに換算すると約86円になるそうです。

3円、5円安いからと遠くのスーパーへ飛ぶ、やりくり主婦の目からすると、それは尊い金額だと思うのです。埋立ごみの総量は、前年対比

で5,720tも減り、ごみの減量にも大きな成果があがったといえます。

ただし、うっかり出すのを忘れてたりすると、1ヵ月は家庭にストックされたり、今まで可燃物以外、ほいほいとまとめて出していたものが、約束日以外はダメ。その辺のわずらわしさがあるのも事実です。

何事によらず、まとめるということは、個人個人から協力を得ずして成り立ちませんし、ごみについては無関心という人はいないはず。人口増加は、産業発展の源となり、それと併用して、ごみの問題も大きくなるでしょう。公の中で、市民ひとりひとりの協調性とモラルの高揚が問われる時代となりました。



鈴木さんの作品は秋の防火ポスターに

市長賞に鈴木 (富士第一小)・高橋 (富士南中) さん

防火ポスターコンクール

昭和57年度の防火ポスターコンクールが行われ、入賞者が決まりました。今回の応募点数は、小学校の部222点、中学校の部70点、高校の部15点でした。いずれも、防火を呼びかける優秀な作品ばかりでしたが、その中から市長賞には、小学校の部で

富士第一小6年の鈴木弘実さん、中学校の部で富士南中1年の高橋清美さんの作品が選ばれました。

鈴木弘実さんの作品は、秋の防火ポスターに、高橋清美さんの作品は、来年春の防火ポスターとなり、市民のみなさんに防火を呼びかけます。